

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年9月2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690100526
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホームうすき
所在地	鹿児島市宇宿2丁目13番17号 (電話) 099-255-2835
自己評価作成日	令和6年8月7日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和6年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺には大型商業施設が多く立ち並び賑やかですが、ひとつ中に入った川沿いにあり、2階からは桜島が見え、静かで落ち着いた環境にあります。敷地内は広く、駐車スペースに困ることはありません。また、公共交通機関では脇田駅や宇宿駅から徒歩で来れる場所にあります。

私たち職員は入居者の出来ること、したいこと、楽しみなことを日々の生活に取り入れながら、本人らしく過ごせるように支援しています。また、ご家族からの意向を伺いケアプランを作成し、共に支え合う関係性を作っています。

毎月その月に合った行事を行い、お弁当を持って外出したり、桜やコスモス見学に出掛けるなどしています。天気が良い日は川まで散歩したり外気浴をしながらお茶をしたりと、なるべく外に触れられる環境を作っています。

面会は感染対策を行いながら玄関で会うことができます。大勢の人を避ければ外出も可能です。感染者が多い時は、1階交流室でお弁当など持参していただき、一緒に食事ができます。

健康面では訪問看護が入り、いつでも相談・指導が受けられる状況にあり、早めの対応ができることで健やかな生活を送れる体制にあります。

入居者・ご家族と笑顔で安らぎのある生活を送れるよう、職員研修・各委員会にも力を入れ、日々のケアに取り組む努力をしています。

利用料の面では生活保護受給者の方も入居可能です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは鹿児島市宇宿地区の産業道路から一筋入った閑静な川沿いの広い敷地に平成22年に開設している。周辺は高層マンションや大型商業施設、自動車関連会社、住宅産業等の事業所が建ち並び利便性がよい。園庭の菜園には季節ごとに野菜等が植えられ、散歩時の利用者は日常的に四季を感じながら愛でている。現在、介護度1～5(平均介護度3.1)、平均年齢85.8才の18人(うち男性4人)の利用者が入所しており、うち独歩可能は5人で重度化しているが、快適な環境の中で平穏な日々を過ごしている。

管理者及び職員は、開設時からの理念を基に毎年度ケアの目標も設定して、利用者がその人らしく生きがいを持ちながら穏やかに過ごせる支援に日々努めている。外出時の個別支援や日々の食事(カップ麺、テイクアウトの食品他)、嗜好品(ドリップコーヒーや夕食時のノンアルコールビール他)等も利用者が望むことは可能な限り叶えるように取り組んでいる。コロナ感染症が5類に移行したのを機に弁当持参のドライブによる季節の花見等、外出等の機会を増やし、また、家族との外出や一時帰宅、会食等も推奨して利用者のリフレッシュを図っている。

管理者及び職員は、何でも気軽に意見を言い合える信頼と協力関係を築いており、日々の業務の中や毎月の職員会議でホームの運営やケアについての意見を出し合って改善に取り組んでいる。勤務シフトには有給休暇の取得や個人的事情等にも配慮し、法人による給与体系や休暇、福利厚生等も充実しており、職員のモチベーションアップに繋がっている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念の中に地域との交流を掲げている。また、内部研修で理念について検討し、サービス内容の振り返りを行っている。	開設時からの理念を玄関や各ユニットの受付に掲示し日常的に確認しながら業務に従事しており、理念に沿ったケアの年度目標も設定している。毎月の職員会議でケアの振り返りや意見交換等を行ない、計画的（年1回）に研修も実施して理念の共有と実践に努めている。年度末には理念の見直しやケアの目標の達成状況を全職員で確認し次年度に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会班長をしており町内会に参加している。回覧板は職員に周知している。小中学校のリサイクル活動の協力や地域の小売店など利用している。	一般住宅が少ない地域であるが、管理者は町内会の役員（班長）を長年担っており、日頃から地域の状況を把握し民生委員との協力関係も構築している。利用者は散歩や通院時には地域の人と会話し、訪問美容の実施や宇宿小・中学校のリサイクル活動への協力、地域の商店での物品購入等に努め災害時の協力体制も築いている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	ボランティア活動の受け入れをしているが、コロナ禍以降参加者はいない。介護相談員派遣はR5.11/22に実施している。今年度も受け入れ可能と回答している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催し民生委員、ご家族、長寿あんしん相談センター鴨池南の方々が参加され、意見を頂きケアに活かしている。	コロナ感染症に配慮して職員だけでの会議が続いていたが、5類に移行したのを機に令和5年度からは本来の会議を隔月毎に開催している。家族や民生委員、町内会長、地域包括支援センター等が出席して、ホームの現況、イベント、ヒヤリハット等の報告を行い、委員からのケアに関する意見や地域の情報等を基に意見交換して運営やケアの改善に繋げている。毎回テーマを決めて研修も行う等、有意義な会議となっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者のサービスや受診に関する報告・相談を行っている。担当者との面談や書類に関する手続きなど協力し家族へ報告している。ケアプランやオムツ領収書など郵送している。	市の担当者には日頃の連携でホームの状況の理解を得ており、窓口に出向いたり電話、メールで介護保険の更新や各種制度の協議等に取り組み、生活保護受給中の利用者（8人）の処遇に関する連携も担当ケースワーカーと密に行う等協力関係を築いている。FAXやメールによる情報の把握に務め、研修もズーム等で積極的に受講してサービスの向上を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を毎月開催し、対象者の状態把握、改善策を検討している。身体拘束に当たる場合は家族から同意書を頂き、経過表の作成、早期解除への取り組みができるよう体制を整えている。また、年3回の内部研修を行っている。	身体拘束適正化の指針を定め、身体拘束適正化委員会を毎月開催しており、利用者の状況に沿ったケアの方法等の意見交換や事例も提示しながら認識を共有している。また計画的に研修も実施しスピーチロックを含む拘束や虐待の無い利用者の尊厳や人格、思いを尊重したケアに取り組んでおり、不適切なケアを見受けた時は、管理者は助言指導を行って改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止検討委員会を年3回以上開催し、チェックリストやアンケートを行うことで日々のケアの振り返りや、虐待に繋がりやすいケアを理解することができている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修の開催、外部研修の参加にて理解を深めている。成年後見人の方と相談できる関係性ができている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約などに関することは全て書面・同意書にて説明し、質問や不明な点是对応し理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。入居者・家族の意見、要望は記録に残し職員が共有、反映できるようにしている。面会の制限が軽くなったことで、入居者や家族の意向を受け入れやすくなってきた。	利用者の思いや意向は日頃のケアの中での会話や仕草等から汲み取り、家族からの意見、要望は面会（玄関ホールや交流室で実施）や電話、意見箱等で把握に努めている。また、毎月のメッセージカードや隔月発行の「うすきの風」には写真やコメントで利用者の近況を伝えながら意見、要望を頂いてケアの改善に取り組んでいる。利用者や家族の要望により外出や外食、お盆の1泊帰宅、訪問サージ等を実施している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や各委員会で発言できる場を設けている。また、管理者はいつでも対応できる体制（ラインなど）を取っている。	管理者及び職員は忌憚なく意見を言い合える信頼と協力の関係を築いており、日頃の業務の中や毎月の職員会議等で意見や要望を出し合い、随時、個人面談も実施して業務やサービスの向上に取り組んでいる。管理者は職員からの相談等をいつでも受けられるようにラインによる体制を整えて助言、指導に努めており、有給休暇の取得や介護ストレス、プライベートの事情等にも配慮するなど働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の業務内容・場所、労働時間、公休希望など全て受け入れ働きやすい環境を作っている。しかし、職員不足による公休取得が難しい状況にある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の適性や委員会に合った研修参加や資格取得に力を入れている。リモート研修が増え、参加しやすくなっている。実務者研修は助成金を受け昨年2名参加している。実践者研修も希望があれば受けられる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、管理者会議に参加し情報交換や意見交換を行っている。職員はコロナ禍になり他事業所との交流は少ないが、リモート研修や助勢での交流にて、情報交換など行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談しホームの概要の説明、どのように生活したいか不安や要望を聞き、出来る限り受入れる体制を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込の時点から、ホームの見学・概要を説明し、家族の不安や要望を聞き、出来る事・出来ないことを話し合いながら、安心して入居できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向を伺い、現状を把握したうえで、出来る事なのか見極め、必要であれば訪問マッサージや訪問診療など取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを活かし、それぞれ日課を設けお互い助け合いながら生活を送っている。入居者の重度化から出来ることが少なくなった人もいるが、長年過ごした関係性を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月写真付きメッセージカードで日頃の状態を報告している。面会時にも変わったこと、受診後はその結果を報告し、本人らしく生活できるように、その都度意向を伺っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策を行いながら玄関で対面での面会を行っている。また、人混みでなければ外出や外食も行い、自宅のみなら外泊も可能である。感染者が多い時は1階交流室でお弁当など持参していただき一緒に食べている	利用者毎の家庭環境や生活歴、馴染みに関する情報等を把握し、家族や後見人等との面会を玄関ホールや交流室で実施している。園周辺での散歩や通院、ドライブによる桜が丘公園や慈眼寺公園での季節の花見、車窓から街並みの見物等を実施し電話や手紙の取り次ぎも行う等、馴染みの人や場との関係の継続に努めている。また、家族との外出や外食等も積極的に支援し馴染みのヘルパー派遣での墓参りや交流室での家族との会食等の支援にも取り組んでおりボランティアの受け入れを申し出ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や関係性を理解し、その人に合った交流の仕方を支援している。何かトラブルがあった時は職員が間に入り早期解決に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も本人や家族の気持ちに寄り添い、相談や支援を行っている。退居後も連絡があったことは支援経過表に記録している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望をできるだけ受入れケアプランに入れている。ドリップコーヒーを飲む人、毎日電話をする人、カップ麺を毎週食べる人など個別ケアに取り組んでいる。	日頃の対話や寄り添いの中での仕草等から思いを把握し、家族の意向も確認しながら自己決定を尊重したその人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。利用者の望むことは可能な限り叶えてあげたいという気持ちでケアしており、食後のコーヒータイム時のドリップコーヒー、夕食時のノンアルコールビール、テイクアウトやカップ麺等を希望に沿って支援しており、生きがいとなる趣味や家事の取り組みも心身の状態に配慮しながら個別の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの暮らしについて聞き取りし、ケアマネ・看護師などから情報提供書をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアチェック表に毎食の摂取量、1日水分量、バイタルチェック、排便の有無、体重を記入し健康状態を把握している。介護記録には日々の状態を記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が3ヶ月毎にモニタリングを作成している。担当者会議を開催し本人・家族・職員・看護師・医師などから意見を伺いケアプランを作成している。	利用者や家族の思いを丁寧に汲み取り、主治医の指示や3か月毎のモニタリング時の職員の意見、日頃の記録等を基に習慣や楽しみ事等にも配慮した介護計画を作成して改善に努めている。定期的見直しのほか利用者の状況に変化が見られた際には実態に沿った計画に変更して取り組んでおり、職員は実施状況を各種のチェック表や業務日誌等で共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に入居者の日頃の状態、面会や電話での家族との会話・意向、受診などの結果、医師の指示、本人に関することは全て記録に残すようにしている。そこから支援経過やモニタリング等へ移行し、ケアプランに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族から様々な意向があり、出来る限りホームで受入れ個別ケアとして対応している。困難な場合は職員間で相談し一番良い方法で対応できること（訪問系やボランティアなど）を家族とも相談しながら決めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし力を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりに合ったケアを行うため、歯科往診、訪問ヘアカット、訪問診療、訪問看護など取り入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望の病院を利用している。また、状態に応じ専門科への受診や転院を行い、通院は職員が同行し状態報告や指示に従い、健やかに生活できるよう支援している。	入所時に病歴等を把握し利用者や家族が希望する医療機関での治療を継続しており、現在8医療機関（内科、精神科他）がかかりつけ医で、歯科も訪問診療で治療している。主治医による定期的な訪問診療（月2回）や通院を実施し、他科受診は家族と協力して対応している。時間外の急変時は救急医療で対応し週1回法人の看護師の訪問により健康管理や健康相談等も実施されて、利用者や家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	火曜日の訪問看護の際、状態報告や受診結果、ケアプランの提供など行い、指示をもらっている。また、困難事例については相談できている。後日、訪問看護記録が送信されてくるので、各自で保管している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供書を作成し日頃の様子や気を付けて欲しいことなど詳しく記載している。地域連携室との連絡を密にし本人の状態把握に努め、早期退院に取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化と終末期について説明し同意書にサインを頂いている。状態悪化した際は再度説明し医療関係者と連携し家族の不安が軽減できるよう支援している。ケアプラン更新時はリスク説明書、看取りについてのご確認にサインを頂き緊急時に備えている。	重度化や終末期におけるホームの対応は利用開始時に利用者及び家族に指針を説明して意思確認書を貰っている。重度化した時点で主治医や家族、関係者は十分な話し合いを行い、管理者（准看護師の有資格者）を中心にホームで可能な限りのケアをチーム体制で取り組むこととして看取りや急変時対応の研修も計画的に（年2回）実施しているが、最近の看取りの実施はない。なお、看取りについては運営推進会議でも研鑽している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを目の届く場所に掲示している。応急手当や心肺蘇生法について内部研修している。急変や事故発生時はすぐに管理者に連絡し指示に従い対応するようになっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、火災・地震の日中・夜間想定避難訓練を行っている。そのうち1回は消防立ち合いを行っている。地域にはチラシを配布し協力をお願いしている。2階更衣室に非常食など準備し3ヶ月毎に点検している。	年3回（うち1回は消防立ち合い）夜間想定を含む火災、地震発生を想定した災害訓練を実施し、通報や防火設備の取扱い等も習得している。災害訓練の実施に際しては地域の住民にもチラシで周知と協力をお願いしており、住民も災害発生時には避難した利用者の見守り等に協力する旨理解している。連絡網を整備し日頃から地震や風水害等を話題にして防災への認識を共有している。BCPに基づき研修の実施や災害発生時の飲料水や食料、介護用品等を約3日分備蓄し、ラジオや懐中電灯、カセットコンロ等も備えており、防災用品の点検を定期的（3か月毎）に実施している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳や誇りを傷つけない声掛けやケアを、一人ひとりに合った方法で行っている。また、内部研修を行っている。	利用者の人格の尊重やプライバシーの確保、守秘義務等については年間の研修計画に組み入れて認識を共有しており、倫理や権利擁護等の研修も行い、日頃から尊厳や人格を大切に言葉遣いやケアに努めている。特に排泄や入浴、更衣時のケアは誇りや羞恥心、習慣等にも配慮した適切な対応に心掛け、入室時のノックや声掛けの励行など接遇マナーに努めている。利用者が自己決定し易いような語りかけや選択肢の提示など日常的に工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけをしている	表現が難しい入居者は行動パターンや表情から考えたり、選択肢を提示したりしている。日頃から自己決定できるような声掛けを行い、思いを言いやすい雰囲気作りを努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの性格や生活パターンから様々な形で過ごせるように支援している。行動を見守り、危険な時は一緒に行動するなど、できるだけ制限しないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洗面台に本人用のブラシを準備し、いつでも整えられるようにしている。衣替えを行い、季節に合った服装を支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状態に合わせ食事形態を変えたり、嗜好品を提供している。自分で食べる楽しさが維持できるよう、食器類や時間の工夫を行っている。食器洗い、下膳などできることは一緒に行っている。	栄養バランス、嗜好、形態、季節感、代替食等に配慮しながら調理専任の職員（3人）を中心に3食ともホームで調理しており、下処理や片付け等を一緒に行う利用者もいる。おせちや誕生会などの行事食や仕出し弁当、手作りのおやつ、食後のコーヒータime、テイクアウト、弁当持参の公園での花見、家族との外食等、食事が楽しみなものとなるよう取り組んでいる。利用者毎の食事や水分の摂取状況を把握し健康維持に努めている。感染症に配慮して外食は少人数づつに分けて実施している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は毎食確認している。お茶以外にボカリや麦茶など準備し、1日水分量が1リットル以上摂れているか確認し、こまめに声掛けや介助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けや介助、仕上げ磨きなど個別にケアを行っている。状態に応じ歯科受診・往診を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁状態に応じ、綿パンツにパッド、トレパンのみなど工夫し、立位困難者は2名介助を行いトイレ使用の維持に努めている。本人の苦痛や危険性が出てきた場合はオムツ使用（夜間のみなど）へ変更している。	利用者の自尊心や習慣、羞恥心等に配慮し、身体の状態やパターンに対応した支援をプランに反映させてケアしている。常時オムツ使用の利用者（6人）もいるが、昼間はさりげない声掛けや誘導等で出来るだけトイレでの排泄に取り組んで排泄機能の維持に努めている。便秘の予防に食材やヨーグルト、水分の摂取、運動にも配慮して自然排便に努めているが、状況によっては主治医の指示で服薬する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時のお茶の時にヨーグルトを提供している。排便が滞っている時は牛乳など補水を行い、排便状態に応じ下剤の調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の体調や受診等で変更はあるが週2回行っている。シャワー浴の方も「気持ちいい」と言ってもらえる丁寧な介助をし、同時に楽しくなる会話をしながら体調の変化を観察している。	基本週2回、個浴で支援し、状況によってはシャワー浴や清拭でも保清している。入浴の順番や温度、時間、好みのシャワー、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応し、2人介助も取り組みながらゆっくり楽しんでもらっている。入浴後は水分補給や軟膏の塗布を支援しており入浴が職員との良好なコミュニケーションの場にもなっている。現在は入浴を渋る利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	終日居室で過ごす人やホールで過ごす人、体力的に臥床が必要な人など、それぞれに合わせた安静の取り方を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬予防のため二重チェックと朝晩は夜勤者、昼はレク係が担当し投薬している。服薬後の空き袋は1か月間保管しチェックできるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・干し、食器洗い、お盆拭き、拭き掃除、2階へ運搬などを日課としている。本人用のおやつや飲料水なども準備している。テレビ視聴や散歩、パズルなど個々の楽しみを支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は川まで散歩したり、玄関先で外気浴をしたりしている。また、行事でお弁当を持ってお花見や外食など行っている。ヘルパーを使用しお墓参りや家族との外出も行っている。外出困難者は交流室で家族が持参した食事を一緒に摂ることもできる。	天候や体調に配慮しながら園庭での外気浴や近くの川岸への散歩を日常的に行い、ドライブによる桜が丘公園や慈眼寺公園での季節の花見、初詣で、父の日、母の日の外食等を計画的に実施し、家族との外出、一時帰宅、外食等も心身の状態に配慮しながら推奨している。ヘルパー制度を活用して墓参りや外出する利用者もいる。七夕やソーメン流し、運動会等、季節感のある行事もホームで実施する等リフレッシュに取り組んでいる。コロナ感染を憂慮して買い物の実施は控えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして預かり、お菓子やコーヒー、日用品、本人が欲しい物を購入している。本人の希望があれば家族と相談のうえ所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は9:30～18:30の間ならいつでもできる。携帯電話の所持も可能。手紙やハガキの購入や郵送の手伝いも行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に換気を行い、温度・湿度計を設置し快適な環境が保てるようにしている。季節感のあるホールや玄関の壁画作成、造花を飾ったり、行事などの写真を飾ったりしている。	建物は2階建てで各階に1ユニットずつ設置されており、バリアフリーの余裕ある広さで採光や空調、整理整頓、感染予防の消毒薬の設置等、十分に配慮されている。ホールにはテーブルやソファ、テレビ等が動線や利便性を考慮して設置され、季節に応じた利用者の作品（壁画や貼り絵他）や行事の写真等を掲示し、対面式の台所からは調理の音や臭いが伝わるなど家庭的で和やかな雰囲気となっている。菜園には季節の野菜等が植えられて、散歩時の利用者は日常的に愛でながら収穫を楽しみにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホールのソファ、個人の空間を保ちたい人は1人用テーブルなど設置している。居室で過ごしたい人は自分のペースで戻り過ごしていただくなど、それぞれに合った工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具、仏壇や思い出の品、家族写真など馴染みの物を使用している。安心して過ごせる環境作りを行っている。	居室はフローリングに腰高窓の構造で明るくエアコン、ベッドが備えられ、過度なケアとならないように利用者に確認しながら清掃や整理整頓の支援に務めている。利用者は自宅から寝具やテレビ、家族写真、仏壇、遺影、小物等を持ち込み、自身の作品や頂いた品物等も飾るなど家庭同様に居心地良い環境に整えて安心した日々を過ごしている。居室入口には意向に沿って氏名の表示や好きな俳優の写真を掲示して自室を確認している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ内の手すり、浴室などの表示、トイレ・脱衣所は広く車椅子が入るため安全に移乗できる、自分の部屋だとわかるように表札や俳優の写真など掲示している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない